

第1章 「三茶のミライ」策定の趣旨

（1）策定の背景と目的

「三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針」に掲げるまちのビジョン「進化し続ける交流のまち『三茶Crossing』」の実現に向けて、区民・事業者・町会・商店街・大学・区など、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多様な主体である「みんな」が、まちづくりの担い手として、相互に連携していく必要があります。

「三茶のミライ」は、みんなで「まちの未来像」を描き、「まちの未来像実現のための取組み」を共有し、相互連携によるソフトとハードが一体となったまちづくりの進め方を明らかにすることを目的に策定しました。



（第1回まちづくり会議）



（第2回まちづくり会議）



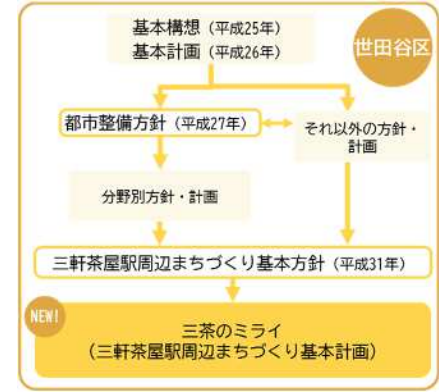
（まちづくりシンポジウム）

（2）位置付け

「三茶のミライ」は、様々な分野が横断的に包括され、多様な主体が連携したまちづくりの取組みを行うための「みんなの計画」であるということを基本理念とし、「まちの未来像」、「まちの未来像実現のための取組み」、「まちの未来像実現に結び付くまちの空間デザイン」、「まちづくり推進プロセス」を示すものです。

今後、「三茶のミライ」を基に、ソフトとハードが一体となったまちづくりの具体化につながる社会実験の実施とともに、まちづくり会議などにおける情報共有や検討を積み重ね、まちづくりの気運と熟度を高め、推進体制を構築します。

さらに、こうしたまちづくりの活動のフィードバックから、まちの空間利活用などソフト面の取組みと、基盤施設整備などハード面の取組みにつなげ具体化し、その取組みを計画的に進めることにより、「三茶のミライ」を実現していきます。



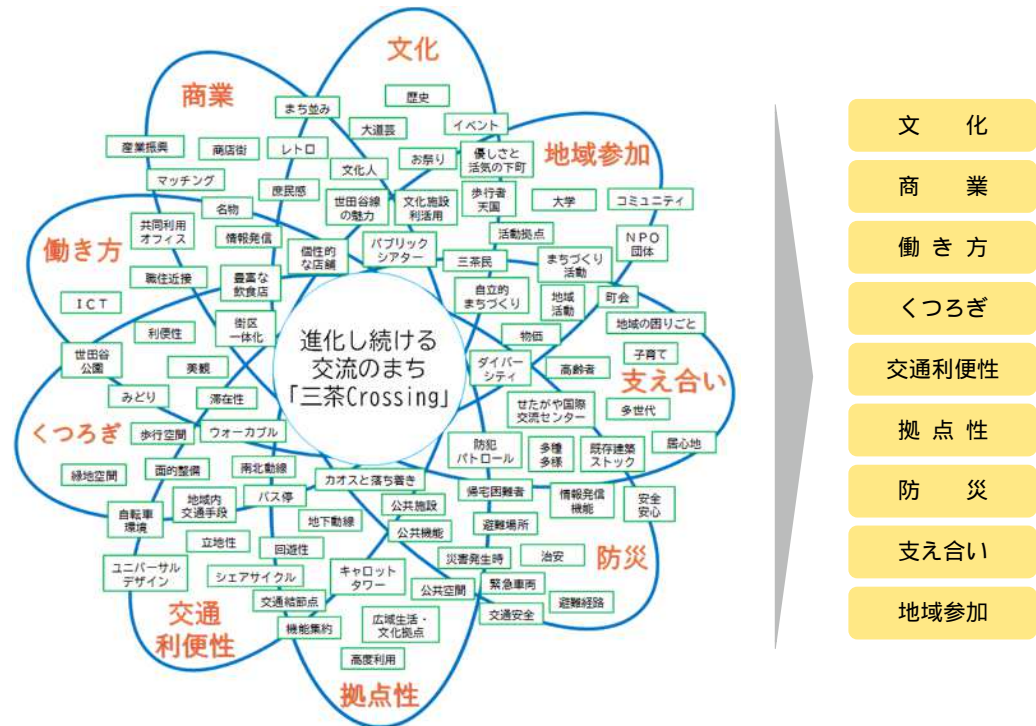
第2章 「三茶のミライ」で描くまちの未来像～みんなの計画に～

（1）「まちの未来像」の描き方



（2）みんなの言葉から導き出したまちづくりのテーマ

三軒茶屋駅周辺のまちを表現したみんなの言葉を基に、9つのまちづくりのテーマを導き出しました。



第3章 9つの未来像実現に向けて～みんなでつくる「まちの未来」～

(1) 9つの未来像と未来像実現のための取組みの体系

まちづくりのテーマ	9つの未来像	9つの未来像を実現したまちの姿	9つの未来像実現のための取組み
文化	1 歴史を継承しアートを生み出すまち	次世代に誇れるまちの歴史や文化が継承され、その魅力が世界中に発信されている。文化創造や活動参加の機会を増やし、作り手が集う場所でアートや文化が育まれ、まち全体にあふれている。	<ul style="list-style-type: none"> 芸術創造や活動への幅広く多様な参加の推進と制度的支援 文化施設などのインフラを積極的に利活用し、人と人を繋ぐ仕組み構築 など
商業	2 個性豊かな店が通りを彩るまち	個性豊かな店舗が通りを彩り、界わい性を育てている。様々な事業者や商店などが連携することによって新たな魅力を生み、まちの活気が継続している。	<ul style="list-style-type: none"> 魅力あるまち並みなどを継承するためのまちづくりルール構築 地域活性化に向けた、多世代が楽しめるイベント実施 など
働き方	3 暮らしの近くに「働く」があるまち	暮らしの近くで様々な働き方ができる環境があり、そうした場所に人が集まり、活気づいている。起業・創業への後押しが、人々を呼び込み、新たなチャンスが生まれている。	<ul style="list-style-type: none"> 多様な働き方促進に向けたICT環境整備 自由自在な仕事の仕方ができるオフィス整備および利用推進 など
くつろぎ	4 くつろぎの空間が育まれるまち	まちなかに広がる公共的空間が居心地の良い場所を生み、人とまちを繋いでいる。駅周辺は清潔感にあふれ、まち並みとみどりが調和し、人々の愛着心を育てている。	<ul style="list-style-type: none"> 街区一体化などの面的整備に合わせ、まちづくり活動ができる広場空間整備 質、量ともに豊かな地域にするための緑地空間整備 など
交通利便性	5 誰でも気軽に出かけられるまち	地上や地下に広がる複層的なまちなかを、誰もが安心して移動ができ、まち全体が繋がっている。公共交通や自転車、新たなモビリティなどの移動サービスが連携し、利用や乗り換えが快適になっている。	<ul style="list-style-type: none"> 通行環境の向上を目指した歩きやすい歩行空間整備 南北方向の分断回避を目指した道路横断機能の整備 など
拠点性	6 拠点性を生かして人々の活動を支えるまち	古くからの街道の分岐点であることや公共交通が充実している利便性を生かし、公共サービスを始めた拠点ならではの機能が集約されることで拠点性が高まり、人々の活発な活動を支えている。	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の再構築として高度利用などによる魅力ある拠点の創出と機能の集積 地下空間における魅力ある広場などの創出 など
防災	7 災害に強く、安全・安心のあるまち	まちに関わる人々が連携できる、共助による防災、防犯及び緊急時に対する体制が整っている。建物の不燃化、耐震化、防災空間の充実などにより、防災性が向上している。	<ul style="list-style-type: none"> 建築物の建替えや面的整備などを契機とした延焼遮断帯及び耐震化推進 駅周辺の防災性向上のための帰宅困難者などの滞留空間整備 など
支え合い	8 暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち	多様な暮らしが重なり合う中で、助け・支え合い、相互理解を深めながら、お互いを尊重し合う関係性が生まれ、包容力が地域内外でのさらなる交流を生み出している。	<ul style="list-style-type: none"> パブリックスペースを活用した地域活動の推進 団体の分野や世代を超えた交流を促進させるイベント実施 など
地域参加	9 誰もがまちづくりに関われるまち	まちに関わる人々が主体的にまちづくりに参加し、まちを育てていける仕組みがある。始める、支える、賛同するなど、様々な形でまちづくりに関われる機会や情報が提供されている。	<ul style="list-style-type: none"> 自主的なまちづくり推進体制及び日常的な情報発信などの取組み参加推進の仕組み構築 まちづくりに向けた区民参加の仕組み構築 など

(2) まちの空間デザインの考え方と4つのポイント

9つの未来像実現のための取組みには、すぐに始められるものがある一方、都市基盤に関する新しい空間を創出するものもあります。これらを推進するためには、多様な主体同士が連携し、具体化していくことが必要であり、今ある空間の利活用や新たな空間の創出、さらにまちづくりの仕組みやルールの構築を一体的に捉え、「まちの空間デザイン」としてまとめました。

9つの未来像実現のための取組みから抽出した「まちの空間デザインに関する取組み」と基本方針で示す「機能イメージ」、「基盤整備イメージ」を基に4つのポイントに整理し、今後、まちの空間デザインに関する取組みについて、社会実験などを実施することで具体化し、一つひとつの取組みが繋がりに加速し、また、新たな取組みも加わり、みんなが連携した社会実装に繋がっていきます。

4つのポイント	考え方
まちの個性・魅力の継承・強化、パブリックスペースの活用 (未来像1、2、6、8)	まちの歴史・文化や個性豊かな店舗などの界わい性など、まちの個性の継承や、地域内外のさらなる交流など新たな魅力を生み出すために、魅力あるまち並みを継承するまちづくりのルール構築やパブリックスペース等の活用を図っていきます。
拠点性を生かした都市機能集積、パブリックスペースの創出、防災性の向上 (未来像3、4、6、7)	拠点ならではの機能の集約や防災性の向上を一体的に進め、人々の活発な活動を支えていくために、市街地の再構築による拠点の創出や、暮らしの近くで様々な働き方ができる環境などの機能集積と合わせて、広場空間整備や延焼遮断帯の形成及び建築物等の耐震化などを図っていきます。
歩行者空間の充実、スムーズな移動や乗換えなど回遊空間の向上 (未来像4、5)	まち並みとみどりが調和した居心地の良い場所を生み出すとともに、公共交通の利用や乗換えが快適となるよう、質、量ともに豊かな地域にするための緑地空間や歩きやすい歩行空間などを整備し、まちの回遊空間を充実させていきます。
南北移動の円滑化、地下空間の活用・創出 (未来像5、6)	地上や地下に広がる複層的なまちなかを行き来できるなど、まち全体を繋げ、誰もが行きたいところに安心して移動できるように、南北分断解消のための道路横断機能や地下空間における魅力ある広場などの整備の誘導を図っていきます。

(3) まちの空間デザインのポイントイメージ図

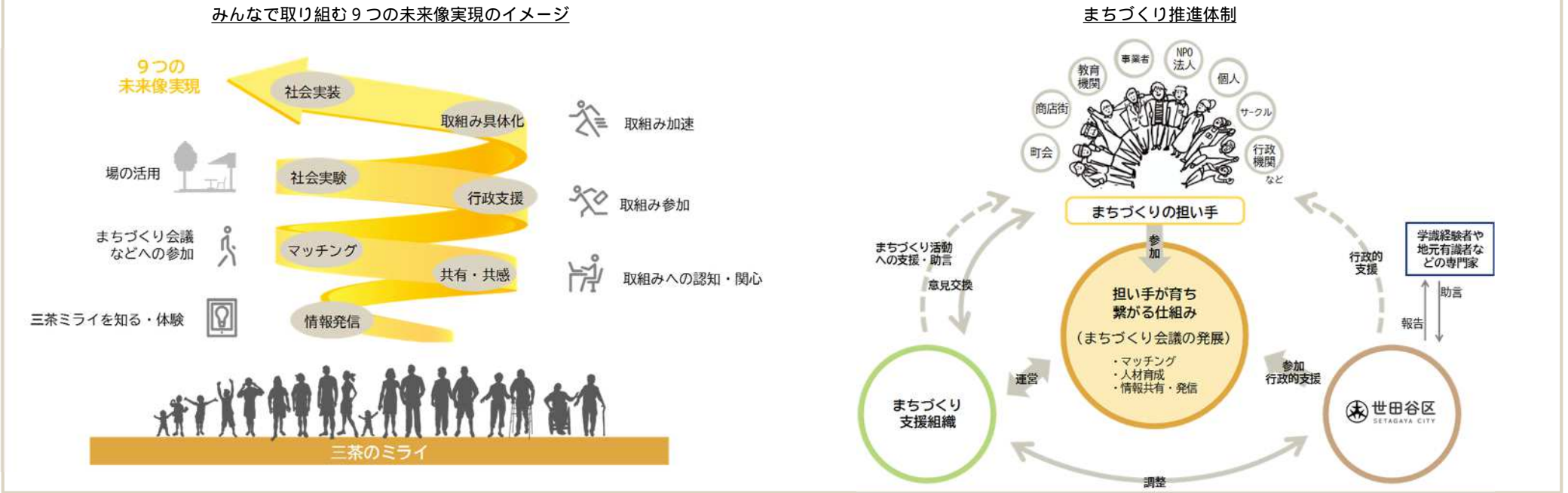


凡例

	まちの個性・魅力の継承・強化、パブリックスペースの活用 未来像 1,2,6,8		南北移動の円滑化 未来像 5,6		交流の軸		回遊路
	拠点性を生かした都市機能集積、パブリックスペースの創出、防災性の向上 未来像 3,4,6,7		地下空間の活用・創出 未来像 5,6		公園、緑道、庁舎等の公共施設		大学、寺院等の公的施設
	歩行者空間の充実、スムーズな移動や乗換え、回遊性の向上 未来像 4,5						

(1) 参加と協働による持続可能なまちづくり

9つの未来像実現に向け、共に理解し、知恵を出し合い、協力しながら様々な立場で役割を担って、協働することが重要になります。今後、「三茶のミライ」を基に、まちづくり推進体制の構築や、社会実験を中心にみんなができる取組みに参加し、身近な活動を行いながら協働による持続可能なまちづくりを進めていきます。



(2) ソフトとハードが一体となったまちづくり推進プロセス

まちづくり推進体制構築を進める中、担うべき役割や関係性は変化していくことから推進プロセスを整理しました。

創成期では、まちづくり会議を継続し、社会実験を中心とした多様な主体と連携した身近な活動などの9つの未来像実現のための取組みを推進し、まちづくりの気運と熟度を高めていきます。

成長期では、社会実験やみんなと連携した活動のフィードバックから、取組み内容を具体化し、その取組みを計画的に進めることにより「三茶のミライ」を実現していきます。

